

佐賀市教育大綱

令和7（2025）年4月～令和11（2029）年3月

社会が大きく変化する時代に、私たちのまちの未来を築く鍵は「教育」にあります。

これからの新しい未来を創っていく、その当事者であり主人公となる子どもたちを大切に育てていきたい。そのために私たちは、子どもたち一人ひとりが、「やりたいことを見出す力」を育む教育を推進します。子どもたちが自らの夢を見つけ、それを形にしていける力を育むことが目標です。

私たちが願うのは、子どもたちの幸せです。幸せには、四つの要素があると言われています。それは、「主体性」「人とのつながり」「ポジティブ」「人と比べない自分らしさ」です。主体的な学びを支援し、これまでの当たり前を見直して発想を転換しながら、時代に合わせた教育を行っていきます。

近年は、知識や回答を瞬時に提供するAIなどの最新技術が急速に発達しています。これからは、情報をただ受け取るだけでなく、その「意味」を考え、必要な情報を見極める力が求められます。そうした情報を活用し、新たな価値を生み出すことができる子どもたちを育てます。

そして、大きく変化する社会においては、現状に満足するのではなく、新しいことを学び続け、挑戦する姿勢が欠かせません。アイデアを生み出し変化に対応する力や、自ら考え行動する力を備えた子どもたちは、未来を照らす存在になると思います。

私たちは、学校教育のみならず、地域全体でこうした子どもたちの学びや育ちを見守り支えていきます。学校や家庭、企業、地域の皆さまと力を合わせ、このまちから新しい時代を切り拓く人材を育てていきましょう。

佐賀市長 坂井英隆



教育を取り巻く背景

高度成長期～情報社会		予測困難な時代
<ul style="list-style-type: none"> ・人口の増加 ・ベビーブーム ・大量生産、大量消費 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0（超スマート社会） ・多様化する社会 ・パンデミック
これまでの学校教育 みんな一緒に同じペースで同じこと 知識の集積や 自主性※1 、効率性、同質性を重視 <ul style="list-style-type: none"> ・一定のカリキュラムによる授業 ・一斉授業による学習 		これからの学校教育 一人ひとりの特性や進度に応じた方法で学ぶこと 主体性※2 や対話を通じた課題の解決を重視 <ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学び ・協働的な学び
（成果） <ul style="list-style-type: none"> ・国際的にトップクラスの知識習得 ・学力の地域格差の解消 ・規範意識や道徳心の高さ 		（効果） <ul style="list-style-type: none"> ・主体性を育み、こどもたちのWell-beingを実現 ・自律・尊重・創造を身に付けたこどもたちが未来を切り拓くこと
（課題） <ul style="list-style-type: none"> ・低い自己肯定感 ・こどもたち一人ひとりの特性に対応すること ・急速な情報化への対応 ・問題解決能力や創造力の育成の機会が少ないこと ・学校現場の多忙化 		（求められること） <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや可能性を認識し、他人の意見も尊重しながら答えを導く力 ・誰一人取り残さない全てのこどもたちの可能性を引き出す教育 ・情報の価値を見極める力や感性 ・自ら問題を見つけ解決する力（好奇心・探求心） ・正解のないことに対し、最良の選択をして新たな価値を見出す力 ・学校における働き方改革のさらなる推進

未来を生きるこどもたちに必要な資質や能力が変化しています

⇒ 1

これまでの教育との融合

「一斉授業or個別学習」「アナログorデジタル」といった二項対立ではなく、これまでの教育の良さは生かしながら、時代に合った教育の推進が求められます。

未来を切り拓く力の育成

こどもたちを取り巻く環境は大きく変化していきます。予測困難な時代を生きるために、主体的に学ぶ力を身に付けることが求められます。

子育てを取り巻く環境が大きく変化しています

⇒ 2

こどものいる世帯割合の減少や共働き世帯とシニアの就業率の増加など、こどもを取り巻く環境が変化しており、全ての大人がこどもの育ちに関わることが求められています。

生活環境の変化により学びの時期や内容の多様化が進んでいます

⇒ 3

平均寿命の延びや最新技術の発達などを背景に、従来のライフプランの考え方を大きく変える必要がでてきたことにより、生きがいづくりや学び直しなど、学びたい市民のニーズが多様化しています。

※1「自主性」：決められたことを自ら率先して行う力

※2「主体性」：自らの意志や判断に基づき、するかしないかも含めて自らで決め行う力
 すべきことを決定するのが自分であるか、他者であるかが両者の明確な違い

佐賀市教育の方向性

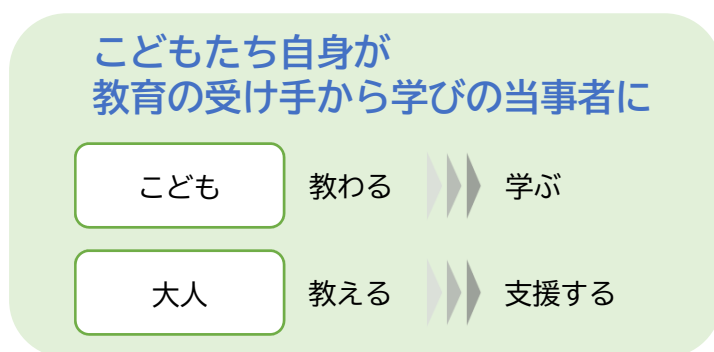
1 こどもたちが目標を持って主体的に楽しく学ぶことができる教育環境をつくります

こどもたちが、様々な社会の変化を乗り越え、**Well-Being**^{※3}を実現するためには、自ら判断し行動する力（**主体性**）を育むことが重要です。

主体性を育むことは、自己肯定感の向上にもつながります。

また、こどもが大人から「教わる」ばかりではなく、自ら「考え、決める」というプロセスの繰り返しに大人が寄り添う（支援する）ことで、安心感が生まれ、他者を尊重する心も育ちます。

そして、他者と協働し試行錯誤しながら学ぶことで、自分に合う学びを選び、新たな価値を生み出す力が育まれます。



これからのこどもたちには、**自律・尊重・創造**^{※4}の3つの力が重要です。

教育観を転換し、こどもたちが自身が教育の受け手から学びの当事者となり、主体性を身に付け、未来を切り拓くための教育を推進します。

（こどもたちの学びの充実）

- ・個別最適な学び
- ・協働的な学び
- ・課題解決型学習

など

（学びの場や環境の充実）

- ・就学前から続く学びの連続性の確保
- ・インクルーシブ教育の推進

など



※3 Well-being：身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

※4 自律・尊重・創造

こどもたちが社会に出れば…

これまでよりも困難や様々な選択を迫られる場面に遭遇します。



自分で考え、判断し行動する力（**自律**）が求められます。

自律

色々な人と会う中で他者と意見がぶつかり合う場面に遭遇します。



お互いの意見を尊重しながら、自分の考えを伝え、話し合う力（**尊重**）が求められます。

尊重

多様化や最新技術の急速な発達など予測困難な時代となります。



正解のない課題に最良の選択をして、新たな価値を見出していく力（**創造**）が求められます。

創造

佐賀市教育の方向性

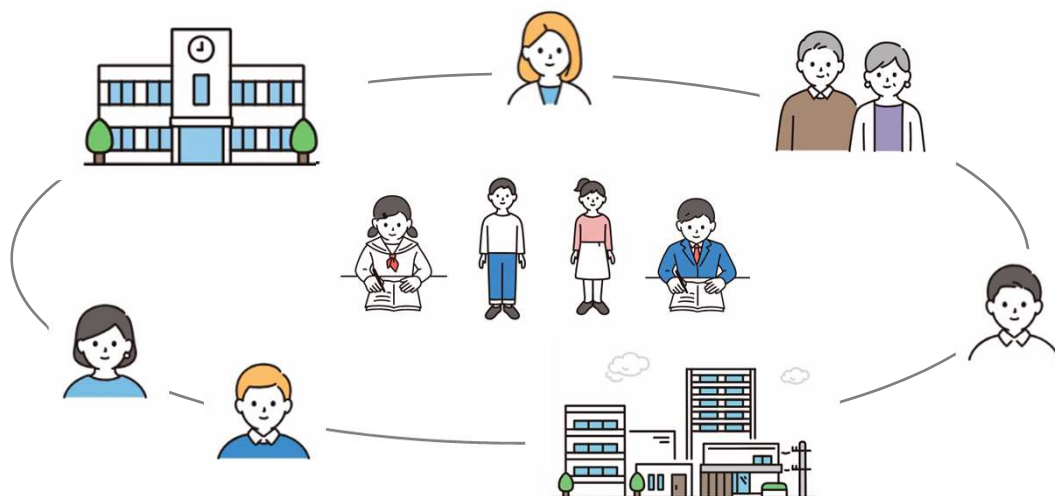
2 地域全体が協力し、子どもたちの育ちを支え、子どもも大人も笑顔で過ごせるまちを目指します

これからの教育においては、こどもの幸せを何よりも優先し、家庭・地域・企業等・学校等が一体となってこどもの育ちを支え、いきいきと成長できるまちづくりを進めます。

また、子どもたちの活躍の場や人との関わりの場となる体験活動などにより、自己肯定感やコミュニケーション能力を高め、主体性を育む取組を推進します。

- ・「子どもへのまなざし運動（家庭や地域、企業等、学校等の連携・協働）」
- ・不安を抱えるこどもへの支援
- ・子どもたちが安心できる居場所づくり

など



3 好きなときに好きな場所で学び、生きがいをもって暮らすことができるまちづくりに取り組みます

ライフスタイルが大きく変容し、学びの時期も多様化しています。また、最新技術の発達などにより、学びの種類も増加しています。

学びたいと考える市民の様々なニーズに対応するため、何歳からでも学び、成長できる学習機会を提供します。こうした学びにより生きがいづくりや自己啓発を図り、一人ひとりの生活に潤いがあるまちづくりを進めます。

- ・多様な学習機会の提供
- ・学習の成果の活用
- ・学び直し（リスキリング）
- ・情報格差の解消
- ・サードプレイス※5としての図書館機能の充実

など



※5 サードプレイス：自宅や職場、学校とは別に存在する居心地のよい居場所